

病害虫情報 No. 10

主に県北地域の水田で、斑点米カメムシ類の発生が確認されています 適期防除を徹底しましょう

作物名：水稻，陸稲
病害虫名：斑点米カメムシ類

[現在の状況]

- 8月上旬現在，県北地域の水田における斑点米カメムシ類の発生量は平年よりやや多く，発生程度が高い水田が確認されている。その他の地域では発生量は平年並である（表1）。
- 斑点米カメムシ類の種類としては，クモヘリカメムシが多い。

表1 水田における斑点米カメムシ類の発生状況（8月上旬調査）

地域 (調査地点数)	発生地点率 ^{※1} (%)		すくい取り虫数の平均 頭/10回振りあたり ^{※2}			発生程度別地点数 ^{※3}				
	本年	平年	本年	平年	順位 ^{※4}	甚	多	中	少	無
県北 29	31	16	0.8	2.2	3/11	0	1	2	6	20
全県 66	20	21	0.4	1.7	4/11	0	1	2	10	53

※1)平成16年までは10回振り調査，17年以降は20回振り調査に変更したため，参考値

※2)多発年(平成12年)を除く県北地域の平均値は0.4

※3)少:すくい取り虫数が1頭以下，中:2-5頭，多:6-15頭，甚:16頭以上

※4)本年を含めた過去11年中の順位

[防除対策]

- 出穂が周辺より早い水田では成虫の飛来が多い傾向がある。また，出穂が周辺より遅い水田では，周辺の水田で増殖したカメムシ類が集まって，被害を大きくする場合がある。これらの水田では発生に十分注意する。陸稲においても水稻と同様に発生に注意が必要である。
- 防除適期は成虫を対象とした穂揃期と，幼虫を対象とした出穂20日後位までである。
- 穂揃期に多数の成虫が確認された場合は防除を実施する。その後は幼虫の発生を確認した場合に防除を行う。県北地域におけるクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は，8月20日頃である。県北地域以外でも発生状況に応じた防除を行う。
- 成虫または若齢幼虫が発生の主体の場合は，残効の長い薬剤が適している。**防除の際は収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。**

表2 稲のカメムシ類の主な防除薬剤（平成19年8月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数- 本剤の使用回数	有効成分名	有効成分の 総使用回数
スミチオン乳剤	1,000倍	21-3	MEP	4※
MR.ジョーカーEW	2,000倍	14-2	シラフルオフエン	2
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14-2	エチプロール	2

※但し，種もみへの処理は1回以内，育苗箱散布は1回以内，本田では3回以内，スミチオン乳剤は，一部の製品では稲に登録がないものがあるので注意

農薬の使用にあたっては，農薬ラベルに記載の使用方法・回数・注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また，薬剤散布の際は，周辺作物への飛散（ドリフト）に十分注意して下さい。